

2019 年度事業報告

1. 会誌の編集発行

第 73 巻、第 2 号～第 6 号および第 74 巻、第 1 号を編集し、発刊した。報文 9、ノート 4、ShortPaper 5、Report 9、総説 5、解説 9、講座 5、研究会だより 1、若手会報告 1 の計 48 件を掲載した。前付け・後付け会告を含め、総ページは 485 頁であった。なお、第 73 巻第 2 号から第 74 巻第 1 号における特集の企画テーマは、「ワールドソルトシンポジウム報告 英文特集」、「2019 年度日本海水学会第 70 年会講演要旨集」、「量子ビームで拓く荷電膜の未来-ガンマ線・電子線からイオンビームへの展開-」、「海の世界把握と生物資源の協調型利用に向けた取り組み」、「フロンティア研究論文 (4)」と「西日本の海水科学研究 (9)」である。

2. 年会総会・研究技術発表会の開催

2019 年 6 月 6 日(木)～7 日(金)の会期で、徳島大学常三島キャンパス地域連携プラザにおいて第 70 年会総会・研究技術発表会を開催した。研究技術発表は口頭発表 22 件、ポスター発表 44 件(学術研究 25 件、技術交流 19 件)であった。ポスター発表のうち 16 件が口頭発表との重複発表であった。学会賞受賞講演が 1 件あり、128 名が参加した。また、学会賞 1 件、研究賞 1 件、技術賞 1 件および奨励賞 1 件の表彰を行った。また、名誉会員 2 名の紹介があった。

3. 西日本支部の活動

1) 年会の開催

西日本支部会員を中心とする実行委員会により、2019 年 6 月 6～7 日に徳島大学にて日本海水学会第 70 年会を開催した。

2) 西日本支部総会の開催

2019 年 6 月 6 日に支部役員会並びに総会を開催した。

3) 「海水・生活・化学連携シンポジウム」への協賛

2019 年 11 月 14～15 日に日本海水学会若手会主催で開催された「海水・生活・化学連携シンポジウム」を協賛した。

4) 2019 年度 日本海水学会西日本支部講演会の開催

2020 年 1 月 10 日に岡山国際交流センターにて西日本支部講演会「食塩と光・電磁波」を開催した。3 名の講演者の皆様にご講演頂いた。参加者は 15 名であった。

5) 第 11 回学生研究発表会の共催

2020 年 3 月 10～11 日に予定されていた日本海水学会若手会主催の「第 11 回学生研究発表会」を共催した。残念ながら新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。

4. 研究会の活動

1) 電気透析および膜技術研究会

① 研究会の開催

第 48 回荷電膜コロキウム

2019 年 10 月 17 日、(株)トクヤマ 徳山製造所、講演 4 件、参加者 51 名

② 幹事会の開催

2) 海水環境構造物腐食防食研究会

- ①第 59 回例会（実験講習会）の企画（3 月）⇒延期（新型コロナウイルス対応）
- ②海水誌特集号の企画
- 3) 環境・生物資源研究会
 - ① シンポジウム(セミナー)の開催
 - 2019 年 5 月 17 日 千葉工業大学（千葉県習志野市）
海水資源環境研究会と共催
講演 4 件 参加者 46 名
 - 2019 年 11 月 8 日 千葉工業大学（千葉県習志野市）
海水資源環境研究会と共催
講演 4 件 参加者 47 名
 - 2020 年 3 月 9 日 くにびきメッセ（島根県松江市）
若手会と共催
中止
- 4) 塩と食の研究会
 - ① 研究会の開催
 - 2019 年 10 月 3 日 マルコメ株式会社本社工場（長野県長野市安茂里 883 番地）
講演会および見学会
参加者 23 名
 - ② 情報誌 16 号の発刊
 - ③ 幹事会の開催（2019 年 10 月 3 日）
 - ④ 海水誌 特集号「味噌と塩」
（74 巻第 2 号）
- 5) 分析科学研究会
 - ① 第 3 回海塩試料の分析技術講習会－基礎編(主成分分析を中心に)の開催
2019 年 11 月 28 日、29 日。1 日目：(一財)日本食品分析センター多摩研究所（東京都多摩市）の見学会。2 日目：「たばこと塩の博物館（東京都墨田区）」にて講義。受講者 14 名（9 事業所）
 - ② 第 26 回幹事会の開催 2019 年 10 月 28 日
 - ③ ニュースレター第 20 号（2019 年 8 月）、21 号（2020 年 3 月）の発行
- 6) 海水資源・環境研究会
 - ① 海水資源・環境シンポジウムの開催
 - ・2019 年 5 月 17 日、千葉工業大学津田沼キャンパス、講演 4 件、参加者 46 名
 - ② 海水資源・環境セミナーの開催
 - ・2019 年 11 月 8 日、千葉工業大学津田沼キャンパス、講演 4 件、参加者 47 名
 - ③ 幹事会の開催(計 4 回開催)

5. 各種委員会の活動

1) 編集委員会

年 3 回の編集委員会を開催した。第 73 巻、第 2 号～第 6 号および第 74 巻、第 1 号を企画、編集、発刊した。会誌の電子ジャーナル化については、J-STAGE システムを利用して、第 72 巻を新たに公開した。英文誌創刊準備号として特集号（第 73 巻第 6 号）を企画した。

2) 研究委員会

海水学会誌 72 巻 3 号に、各研究会の概要や連絡先を一覧で示した「研究会紹介」

を掲載した。

3) 企画委員会

活性化を目的として、企画理事、若手会役員を中心とした委員会を立ち上げた。

6. 若手会の活動

1) 「第19回若手の集い」の開催（会誌第73巻4号参照）

日時：2019年6月5日（水）18:00～20:00

場所：pacific diner TOP OF THE WORLD（徳島市）

内容：若手研究者・技術者の交流会（参加者26名）

2) 「第6回海水・生活・化学連携シンポジウム」の開催

日時：2019年11月14日（木）～15日（金）の2日間

場所：福島県いわき市富岡町

内容：ボランティア理科教室、講演（2件）、ポスター発表（20件）、見学会、交流会（参加者32名）

3) 特集“フロンティア研究論文“の掲載

掲載誌：73巻6号（報文：2報、報告：1報、ノート：3報、Short Paper：1報）

4) その他

役員会の開催、会費支払いシステム（MiiT+）の利用

5) 会員数（2020年3月末現在）

96名（2019年3月末より1名増）

*新型コロナウイルス感染の影響を鑑み、以下の活動を中止とした

①講演会「待ったなし資源・環境問題と海洋資源の研究に基づく地域活性化」
（2020年3月9日、環境・生物資源研究会との共催）

②第11回学生研究発表会（2020年3月10日、11日）

③第3回企業研究会（2020年3月11日）

7. その他

・広報理事

学会HPのセキュリティ強化

・将来構想WG（会誌）オンライン英文誌の創刊に関する検討

・会誌名 Salt and Sea Water Science & Technology（WEBは随時、冊子は年1回）

・将来構想WG（年会）

年会の企画運営の効率化について検討し、昨年度に立ち上げた年会企画者のためのウェブサイト学会サーバへ移設（活動完了）

・将来構想WG（会員管理）

新しい会員管理システムの導入に向けた検討として、ランニングコストがかからないシステム構築に向けて調査中

8. 会員異動

個人会員：入会6名(正会員6名)

退会20名(正会員15名、特別会員4名、名誉会員1名)

2019年度末現在 333名

維持会員：入会1社2口、退会0社0口

口数減：1社5口、2019年度末現在 40社327口